

県外派遣報告書

審判員名	坂本 秀樹	所属	高体連			
大会名	平成27年度 関東高校男子バスケットボール大会					
期間	平成27年5月29日(金)～31日(日)					
会場	ひたちなか市総合運動公園体育館					
スケジュール						
期 日	内 容	場 所				
5月29日(金)	審判会議	ホテルクリスタルパレス会議室				
5月30日(土)	1回戦、準々決勝	ひたちなか市総合運動公園体育館				
5月31日(日)	準決勝・決勝(3person)	ひたちなか市総合運動公園体育館				
会議 講義 内容						
<p>金曜日の審判会議では安西ブロック長より、この場にいることに感謝しつつ、現段階の自分の力を積極的にチャレンジすることを求める、という話があった。またプレーヤーのここまでの努力を、しっかりと評価できるような審判であるように、立ち居振る舞いも含めて信頼される審判であることを求められているということである。</p> <p>講師: 渡邊氏のレクチャーでは、「ゲームの入り方」「基準の示し方」がテーマであった。プレゲームカンファレンスの重要性はもちろん、判定基準については、「そのプレー(現象)が最初に起こったときに」示すことの重要性が解説された。私の場合、判定基準については実際のゲームでは、あまりにも神経質になりすぎる場合もあり、ゲームを感じることに、バランスが必要だと感じた。シリンダーの概念、リーガル・ガーディングポジションの再確認を行った。審判活動において近道は無く、ルールブックからの理解と、現場での技術の理解を繰り返すしかない。針生氏の講義では「違和感」という角度からの解説があった。</p> <p>31日(日)の朝には安西ブロック長からの講義があり、審判技術の向上に近道はなく、日々より良い判定のために「バスケの理解」を深め、「予測」できるようになることが大切という話があった。そのために「比重」「比率」というキーワードで解説され、やはりバランスが必要なのだと再認識した。</p>						
実技						
担当試合	期 日	5月30日(土)	男子	1回戦		
	対戦カード	取手第二	VS	八王子	主審	副審
	相手審判	大山 賢史 氏(栃木)				
ミーティング内容		主任	二宮 隆二 氏(茨城)			
<p>トレイルの動き方にもっと工夫が必要であること。リードの動きには左右に動くことと、少くくらい前後に動くくらい工夫しか制限されているが、トレイルについては、下がったり、踏み込んだり、プレーを追従するためにペネトレイトしたりと、大胆な改善ができるはず。ペネトレイトについてもどの方向に、どのように動くかもいろいろチャレンジできるはずとの言葉をいただいた。その点について実際に感じたり、考えていた点であったので、持ち帰りすぐに実践する。一方で、トレイルからのリバウンドの判定については役割分担を果たせていたこと、いろんな情報をインプットした上で、どうしてもダメだなという思いの入ったブロッキングのコールは伝わってきたとのことだった。</p>						
全体の感想						
<p>審判会議で「判定基準」がテーマにあり、「最初のプレーで」との話があったこともあり、第一試合の担当として、非常に緊張と難しさを感じて臨んだ。会場の雰囲気にもまれるという緊張感ではなく、判定の基準をしっかりと示すことができるだろうかという観点である。緊張するということは、自分の中の「基準・規準」に不安があるということだと思う。シリンダーの概念や、悪い手の使い方、体の寄せ方など、分かっているつもりと本当に理解しているの別を改めて感じ、反省した。安西氏の「上達に近道はない」という言葉通り、地道に判定力をつけて磨いていくしかないと思っている。今回、茨城県協会の方々には良い環境で大会を迎えさせていただき大変感謝します。来年度は埼玉開催ということもあり、細かい点まで見させていただきありがとうございました。埼玉へ帰ってからは、いろんな現場で還元できるよう努力します。</p>						